
緋色の月

紅月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

緋色の月

【Nコード】

N8483I

【作者名】

紅月

【あらすじ】

生と死の一致。

彼はまたループする。

プロローグ：黒い羽根

その日は、紅い月が月光で路上を照らしていた。

地面と空の間には何も無く、其の光を遮るモノは無い。

高いビルの上で、私は地上を眺めていた。

見えるのは、自動車と少数の人だけ。

探し物が見つかる筈もない。

「…大切な…ネックレスだったのにな…」

私は小さく呟く。

その声は、男性の様に低くなく、女性の様に高くない。

こんな声に成ったのはあの日からか。

「もう、12年か……」

私は思わずため息を尽く。

時は無情なモノだ。

全てを変える。

全ては不滅だったとしても、不変ではない。

不滅だからこそ変化を恐れる。

「……………なんてね」

私は落下防止の柵から飛び降りる。

私が地面に触れる事はない。

私には黒い翼が在るのだから。

翼は私の意思とは別に勝手に動き、私の死を拒絶する。

地面にゆっくりと降りる頃には、翼は消えていた。

毎度の事ながら都合の良い翼だ。「もう行くか…ネックレスには名

前が刻まれてるし」

運が良ければ、誰か拾って交番にでも届けるだろう。

私は、紅い月を眺めながら人混みを歩きだした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8483i/>

緋色の月

2011年1月20日05時04分発行